

野球がつなぐ、家族、地域の絆づくり

活動地域（群馬県みどり市）

男性のプロフィール

氏名：星野 輝幸さん

年齢層：若年層（20～30 歳代）

活動概要：市スポーツ少年団単位団に認定員指導者登録し、週4回の練習のほか、大会や練習試合などで子どもたちを引率し、野球指導をしている。

活動開始のきっかけ

社会人野球チームのコーチからの誘いがきっかけ

もともと私自身、小学生のころから野球を続けており、現在でも社会人の野球チームを作って試合を楽しむほどの野球好きです。また、息子も私の姿を見てなのか、野球に関心を持ちはじめ、地元の少年野球チームに入部しました。

ちょうど私が所属している社会人野球チームの先輩が、私の息子が所属した少年野球チームのコーチでもあったので、私たち親同士が互いに顔見知りであったことから、少年野球チームの手伝いを頼まれたのがきっかけです。野球が好きですし、野球指導にも関心があったので、先輩からの依頼を快く引き受けました。

その後、私は、市スポーツ少年団単位団に認定員指導者登録をし、そこで講習を受けて、野球指導に関わるようになりました。

活動の内容

野球指導、子どもと父兄との交流をサポート

週4回、平日は火曜、木曜日の16時～19時半まで、土日祝日は9時～17時まで野球指導を手伝っています。平日は仕事が終わるのが17時なので、17時半ごろからチームに加わっています。

監督・コーチとは別に、ランニングや体操、キャッチボール、ノック、バッティング練習の指導の手伝いやアドバイスをし、地域の子どもの成長をサポートしています。練習試合では、審判を務めることもあります。

少年野球チームには1年生から6年生までおり、その中には自分の子どももいるわけですが、チームでの練習のときには自分の子どもに特に声をかけることはせず、他の子どもたちと同じように指導しています。子どもたちに野球を好きになってもらいたいという一心で、時に厳しく、時に冗談を織り交ぜながら指導しています。

また、子どもと父兄の交流を促進させるために、バーベキュー大会やボーリング大会、旅行などを企画し、実行しています。



子どもたちの成長を見られることが喜び

大会や練習試合、試合においてミスが起きたときには、子どもたちのモチベーションが下がります。このようなときには、そのミスを反省し、次の試合に生かすように指導し、モチベーションの維持と、子どもたちの成長につなげるように心がけています。

子どもたちを技術面だけでなく、メンタル面からもサポートすることに留意してきましたが、その成果として、引込み思案だった子が積極的になったり、自己中心的だった子が、気が利くようになったりと、一人ひとりに成長が見られるようになりました。こうした成長を近くで見られることに喜びを感じています。

周囲との関わり

家族間、地域間のつながりが深まりつつある

息子が野球を始めるようになって、祖父と息子がキャッチボールをしたり、祖母が息子におやつを作ってくれたり、祖父母と子どもが触れ合う機会が増えました。また、野球の試合のときには祖父母も応援してくれ、家族の絆が深まってきているように感じます。

さらに、野球の練習をしていると、地域の高齢者が話しかけてきて、そこで孫の話をし始めたりすることがあります。子どもたちも高齢者の話に耳を傾けますので、世代を超えた交流がそこで生まれているのを感じます。

野球チームの存在が家族や地域の接着剤的な役割を果たし、家族間、そして地域間で会話やつながりを生み出していることは、非常に良いことであると感じています。

さらに、野球の練習や試合に参加するようになってから、他の保護者との交流が図られ、野球以外の地域活動がスムーズに進むようになってきました。野球を通じて交流を深めていくことは、地域の絆を深めることにもつながっていると思います。

直面した課題と解決方法

仕事との両立は、職場のみんなでフォロー

人口が少ない地域であるため、地域の野球指導に限らず、子ども育成会や体育振興会などの地域行事に、男性が多数参加しています。このような土地柄からなのか、我々よりも年齢の高い世代も、今の我々と同じように、地域活動と仕事の両立に苦労してきた方ばかりです。

このため、職場においても、上司や同僚は、私が野球指導を行っていることについて理解を示しており、困った時にはお互い様の精神でフォローし合える良好な関係ができています。

これからの展望

地域に野球を根付かせていきたい

子どもたちが野球を楽しめる環境を整えてあげることが、我々大人の役割であると思っています。しかし、当面の課題は、少年野球チームに入部する子どもたちを確保することです。少子化によって、小学校の児童数が減ってきており、最近では入部者が少なくなっているため、試合に2年生が出場することもあります。

自分の子どもが小学校を卒業しても、できる範囲で野球指導に関わっていきたいと考えています。そして、地域に野球を根付かせていきたいと思います。自分自身も、野球を通じて交友関係が大きく広がりました。野球の楽しさと、野球から学べることを地域の子子どもたちに伝えていきたいと思っています。